

体育指導の苦手な先生大募集！「ゲーム・ボール運動」(小・特)

立命館大学スポーツ健康科学部 大友 智

I 午前：低学年・中学年のゴール型

- 1 全体研修／講義・演習
- 2 下位教材の実技・指導研修
 - ①小学校中学年～ 【パス&シュート】
 - ②小学校中学年～ 【どんだんパスゲーム】
- 3 単元教材の実技・指導研修
 - ③小学校低学年～ 【どんだんおしだしゲーム】
 - ④小学校低学年～ 【コーンシュートゲーム】
 - ⑤小学校中学年～ 【コーンポートボール】
- 4 「体育指導の工夫」の検討・共有(1)／演習

II 午後：中学年・高学年のゴール型

- 1 全体研修／講義・演習
- 2 下位教材の実技・指導研修
 - ⑥小学校高学年～ 【ピボットフットゲーム】
 - ⑦小学校高学年～ 【ドリブルポイントゲーム】
- 3 単元教材の実技・指導研修
 - ⑧小学校中学年～ 【ポートボール 5対5(フィールド3対3)】
 - ⑨小学校中・高学年～ 【ハーフコート 3対2 ドリブルなし】
 - ⑩小学校中・高学年～ 【ハーフコート 3対3 ドリブルあり】
- 4 「体育指導の工夫」の検討・共有(2)／演習

III 振り返り

参考資料 / 小学校学習指導要領解説体育編・平成29年6月・文部科学省から抜粋

ボール投げゲーム・バスケットボール型ゲーム・バスケットボール

1 学年	段階	はじめ オリエンテーション	なか					大会	備考
	時間	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目			
	導入	5分	授業のマナー 集合・整列・挨拶・準備運動・学習のめあて					/	たくさんボールに触れ、投げることを楽しませてください。単元を通してソフトバレーボールを使用します。
	活動 1	10分	ボールはともだち 課題: ボール操作に慣れる(手に当てる) 個人: B 個人: B 個人: B・C ペア: A・D ペア: A・D ペア: A・D・C ペア: A・D・B						
	活動 2	25分	まとあてゲーム どんどんおしだしゲーム 課題: ゲームを楽しみながら投げることに慣れる						
	まと	5分	ふりかえり						

2 学年	段階	はじめ オリエンテーション	なか					大会	備考
	時間	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目			
	導入	5分	授業のマナー 集合・整列・挨拶・準備運動・学習のめあて					/	たくさんボールに触れ、投げることを楽しませてください。単元を通してソフトバレーボールを使用します。
	活動 1	10分	ボールはともだち 課題: ボールをとる 個人: B 個人: B 個人: B・C ペア: A・D ペア: A・D ペア: A・D・C ペア: A・D・B						
	活動 2	25分	コーンシュートゲーム(守りなし) コーンシュートゲーム(守りあり) 課題: 隙を見つけて投げることを楽しむ						
	まと	5分	ふりかえり						

3 学年	段階	はじめ オリエンテーション	なか					大会	備考
	時間	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目		
	導入	5分	授業のマナー 集合・整列・挨拶・準備運動・学習のめあて					/	大会説明 360° コーンポートボール3人対3人のゲーム
	活動 1	10分	バス&シュー 課題: 正確なバスとシュート バス&シュート 360° コーンポートボール ドリブルなし 課題: ゲームになれよう						
	活動 2	25分	360° コーンポートボール ドリブルなし 課題: ゲームになれよう						
	まと	5分	ふりかえり						

4 学年	段階	はじめ オリエンテーション	なか					大会	備考
	時間	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目		
	導入	5分	授業のマナー 集合・整列・挨拶・準備運動・学習のめあて					/	大会説明 ポートボール大会 5人対5人のゲーム (フィールド3対3)
	活動 1	10分	どんどんバスゲーム 課題: サポートの動き ポートボール(5対5: フィールド3対3) ドリブルなし 課題: バスやシュートを使ってゲームを楽しむ						
	活動 2	25分	ポートボール(5対5: フィールド3対3) ドリブルなし 課題: バスやシュートを使ってゲームを楽しむ						
	まと	5分	ふりかえり						

5 学年	段階	はじめ オリエンテーション	なか					大会	備考
	時間	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目		
	導入	5分	授業の約束・マナー シュートゲーム・集合・整列・挨拶・準備運動・学習のめあて					/	大会説明 バスケットボール大会
	活動 1	15分	シュートゲーム 課題: サポート 3対2ハーフコートゲーム(チーム内練習) ドリブルなし 課題: L.Vカット						
	活動 2	20分	3対3オールコートゲーム ドリブルなし 課題: サポートをする 課題: カットを使って攻める						
	まと	5分	ふりかえり						

6 学年	段階	はじめ オリエンテーション	なか					大会	備考
	時間	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目		
	導入	5分	授業の約束・マナー シュートゲーム・集合・整列・挨拶・準備運動・学習のめあて					/	大会説明 バスケットボール大会
	活動 1	15分	ドリブルポイントゲーム 課題: ドリブル 3対2ハーフコートゲーム(チーム内練習)ドリブルなし 課題: L.V 3対3ハーフコートゲーム(チーム内練習)ドリブルあり 課題: ドリブル、L.Vカット						
	活動 2	20分	3対3オールコートゲーム ドリブルなし 課題: サポートをする 課題: 作戦を立てる						
	まと	5分	ふりかえり						

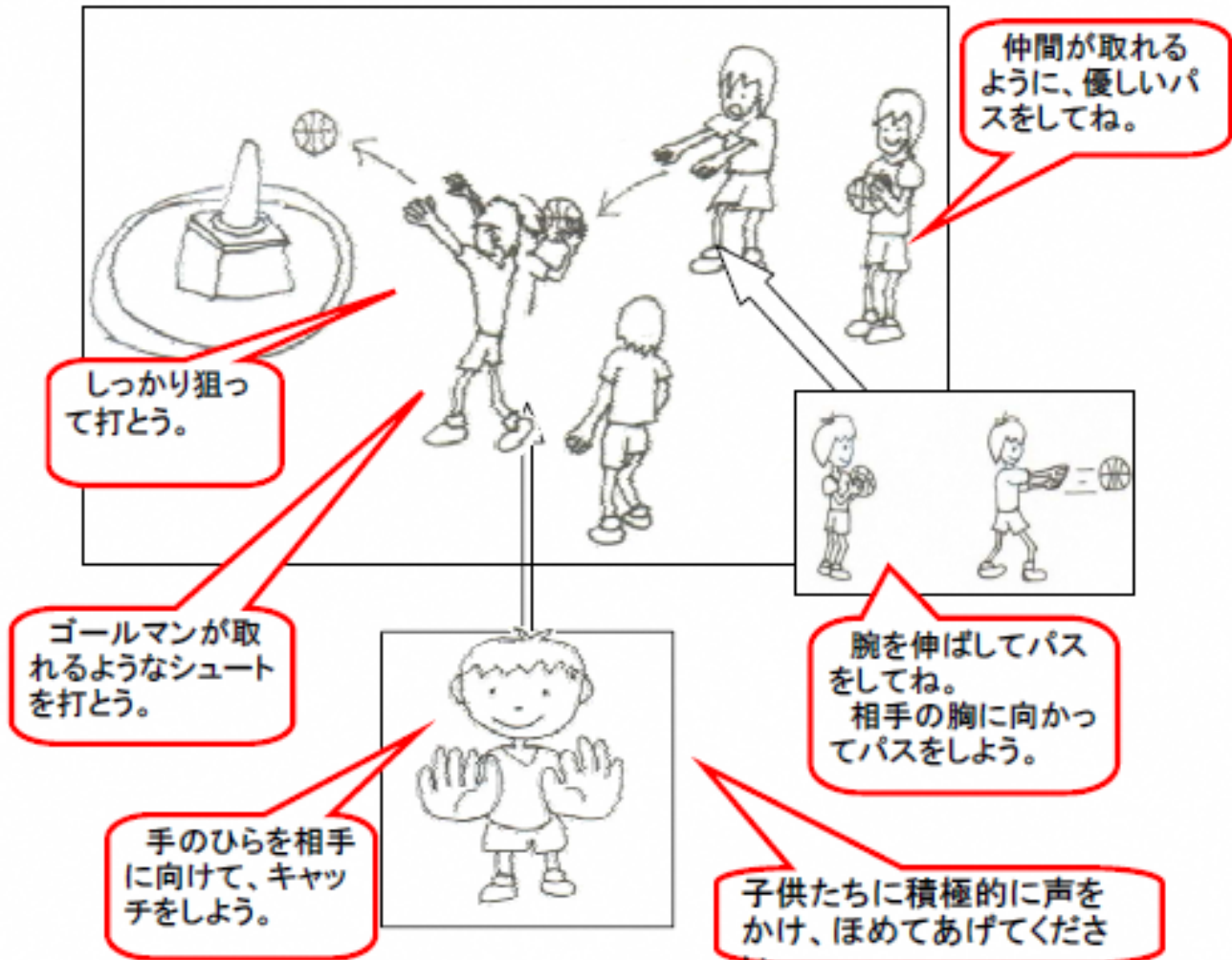
群馬県小学校体育研究会 体育授業プログラムから引用

①小学校中学年～

【パス & シュート】

パス&シュート

ねらい	・ボール操作、シュート
人数	チーム人数
時間	5分間
準備	ソフトバレーボール2人に1個



やり方	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルに向かって2列になります。片方の列は、ボールをパスします。別の列は、パスをキャッチし、シュート打ちます。 ・シュートしたボールは、自分で拾います。たおれたコーンは、パスした人が元に戻してください。 ・シュートは、両手で打ちます。 ・シュートを打ち終わった人は、逆側の列に並んでください。 ・5分間シュートを打たせてください。
-----	---

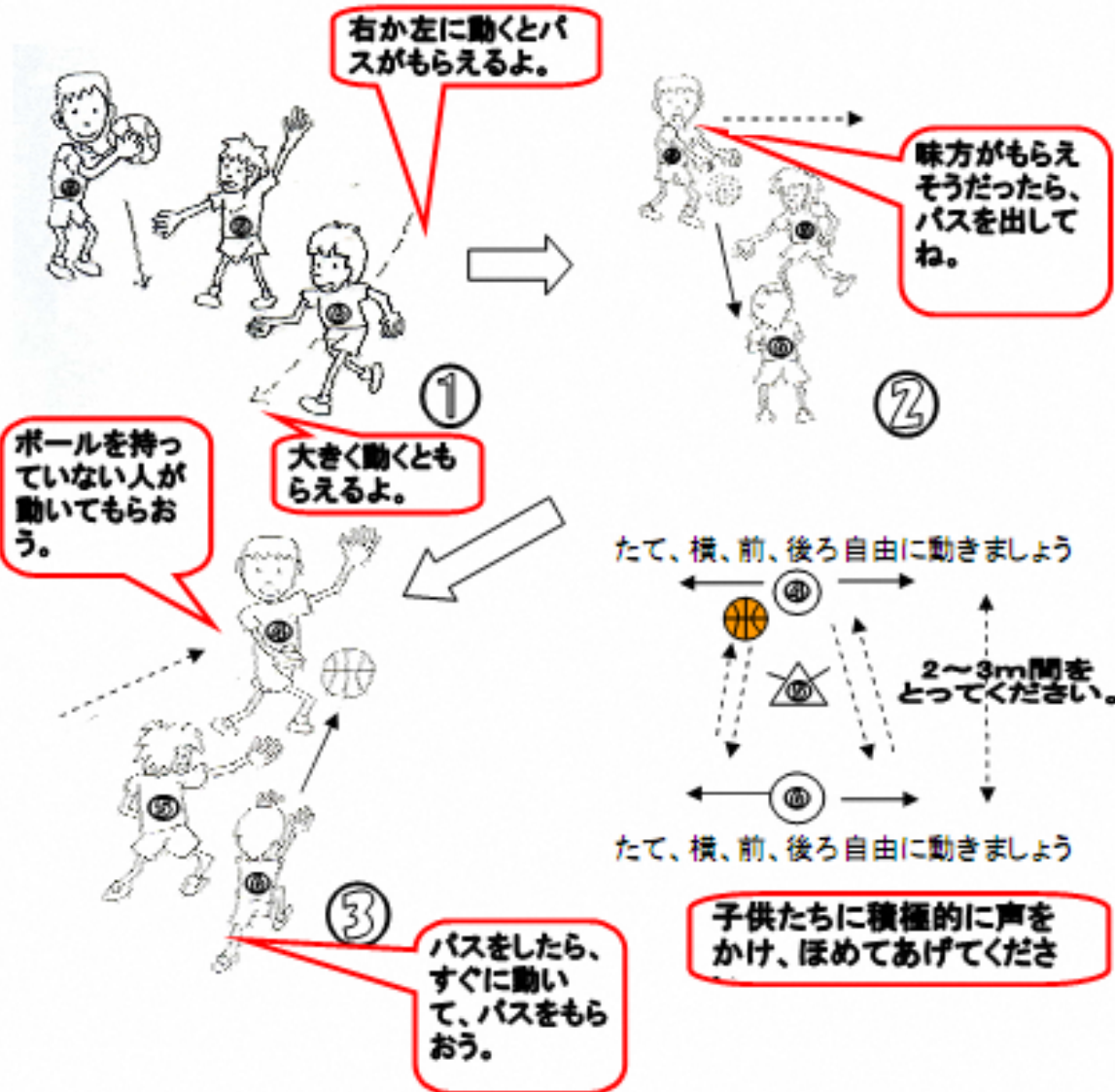
②小学校中学年～

【どんでんパスゲーム】

どんでんパスゲーム

ねらい	・ボール操作、パス
人数	3人組
時間	3分間
準備	ソフトバレーボール3人に1個

時間とセット数は、授業の
進み具合に応じて変更して
かまいません。



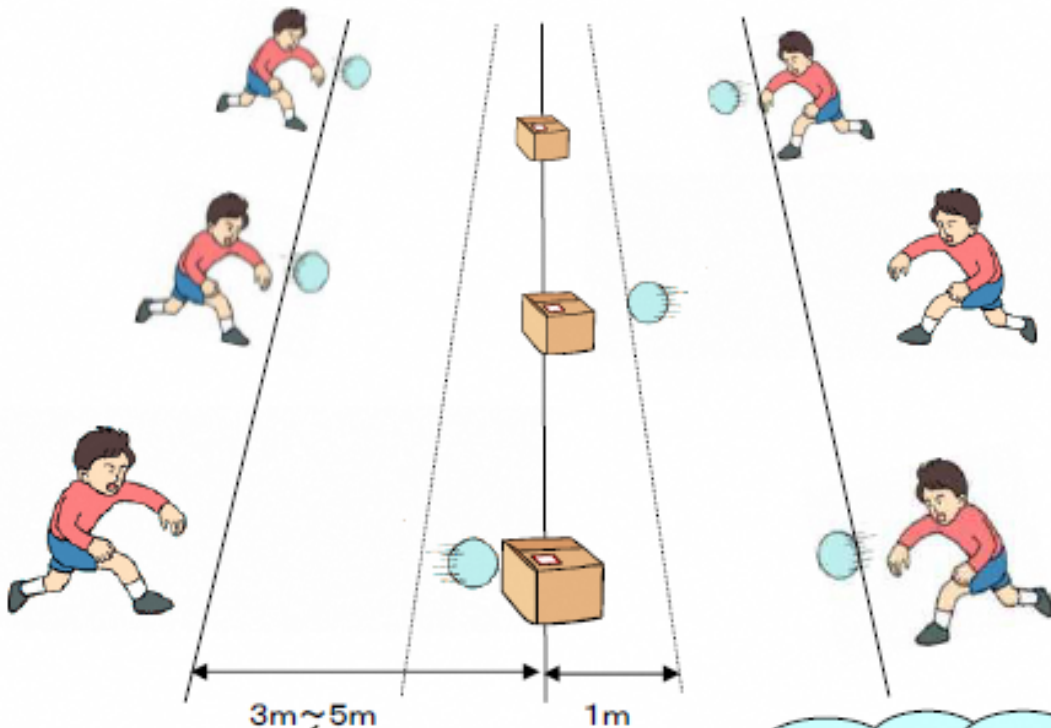
やり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールは、どちらか1人にもたせませず。2人の間に1人守る人をつけます。 ・時間内にパスをどんでんさせませす。 ・パスは、チェストパス(両手パス)で行います。受ける人は、左右に動いてパスを受けませす。 ・守る人は、パスが通らないように守りませす。 ・時間は、1～2分間で交代して、2回から3回行いませす。
-----	--

③小学校低学年～

【どんでんおしだしゲーム】

どんでんおしだしゲーム

ねらい	・的をめがけて投げる
人数	3～5人 対 3～5人（班対抗）
時間	2分間（投げる・拾う）を1セットとして、2セット行う
準備	ソフトバレーボール（2人1個）、段ボール箱（3～5個）



少しずつ、距離を離して課題を難しくしましょう。

1チームの中で、投げない班の子は、ボールを拾って投げる子にわたしましょう。何度も投げるすることができます。

いろいろな投げ方で段ボールを当てようとしている子、ボールを拾っている子を、巡視しながらたくさん誉めたり励ましたりしましょう！！

ルール	○段ボール箱にボールをあてて、ゲーム終了時に1m移動させるゲーム。 1m以上移動できたら1得点。
	○1チームの1つの班が投げ、1つの班はボールを拾い、投げる人にわたす。投げる人が拾って投げても良い。
	○スタートの合図で中央にセットした段ボール箱を狙ってボールをなげる。（バウンド・ゴロもOK）
	○時間終了時に何ポイントとれたか。個人の得点でもチームの合計で評価してもよい。
発展	○段ボール箱までの距離を長くする（標準は3m程度）

④小学校低学年～

【コーンシュートゲーム】

時間やセット数は目安です。変更可能です。

コーンシュートゲーム

当たっても痛くないので安心してゲームを楽しむことができます。

ねらい	・投げる ・止める
人数	攻守同人数(標準は4:4)
時間	攻2分、守2分を1セットとして、3～4セット
準備	ソフトバレーボール(2人1個)、コーン(1コートに1～2個)



攻撃チームは中のコーンに当てるのが課題です。サークルの周囲を自由に移動できます。自分のボールは自分で取りにいきます。

内円は直径1m弱程度。守備の人数が多い場合には広げましょう。

守備チームは捕ったり弾いたりしながらコーンに当てられないように守ります。

攻撃チームは1人1個ボールを持つことで、投げる回数を保証します。

いろいろな投げ方でコーンを当てたり、積極的に守ったりしている子を巡視しながらたくさん誉めたり励ましたりしましょう！！

ルール	<ul style="list-style-type: none"> ○内側の円の中にコーンを置く。(1～2個) ○攻守は同人数で、攻めは1人1個ソフトバレーボールを持つ。 ○スタートの合図で中央にセットしたコーン狙ってシュートする。コーンに当てたり倒したら1ポイント。(パウンドもOK) ○時間終了時に何ポイントとれたか。個人の得点でもチームの合計で評価してもよい。 ○倒れたコーンは、守る人が元に戻す。
発展	<ul style="list-style-type: none"> ○コーンまでの距離を長くする(標準は半径3m程度)

⑤小学校中学年～ 【コーンポートボール】

360° コーンポートボール

ねらい	攻守の切り替えを速くしてゲームを楽しむ
人数	3人对3人
時間	4分間(前半2分、後半2分)
準備	コーンを2つ、ポートボール台を2台、ソフトバレーボール1つ

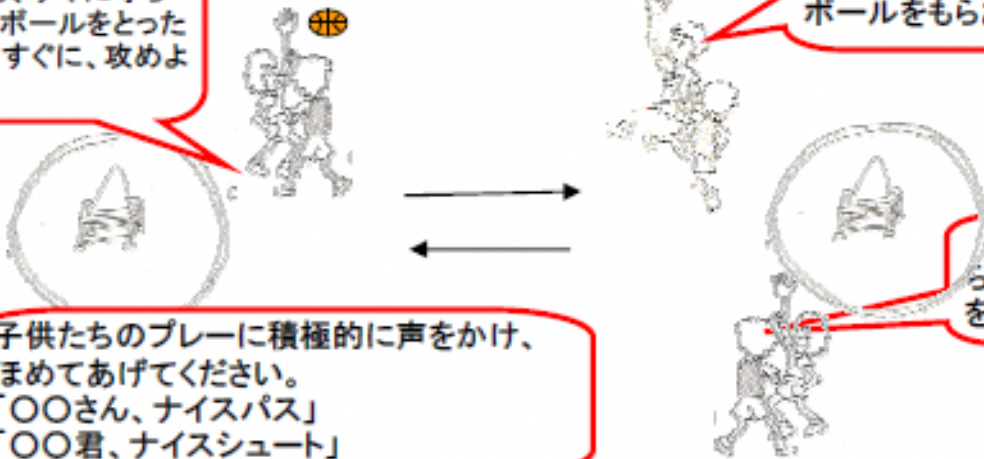
苦手の児童にも数多くパスがまわりいっぱい動く経験ができるので、ゲームは、3人对3人でします。

試合時間とセット数は、授業の進み具合に応じて変更してかまいません。

ソフトバレーボールを使用することで、ボールへの恐怖心が減り、パスキャッチがしやすくなります。

ボールをとられたら、すぐに守ろう。ボールをとったら、すぐに、攻めよう。

空いているところに、走って声を出してボールをもらおう。



ボールをもらったらどんどんシュートをしよう。

子供たちのプレーに積極的に声をかけ、ほめてあげてください。
「〇〇さん、ナイスパス」
「〇〇君、ナイスシュート」

歩いてはいけない

持っているボールを取ってはいけない

相手をたたいてはいけない

ルール

- ・校庭に2箇所サークル(半径3~3.5m)をひいて、中心にポートボール台とコーンを置きます。サークルとサークルの間隔は、10m程度あけてください。
- ・2チームに分かれ、ジャンケンで勝ったチームが先にボールを持つ。
- ・試合開始は、コートの中真ん中から始める。ボールがコーンに当たったら1点。得点をとられたらサークルの中から始める。
- ・ゲーム終了時点でたくさん点が取れたチームの勝ちとなる。
- ・両手パスだけでボールを進める。
- ・ボールを持って歩いてはいけない。
- ・相手や相手が持っているボールにさわってはいけない。

ゲームの勝敗は、子チームと親チームの合計点で決めます。

⑥小学校高学年～

【ピボットフットゲーム】

ピボットフットゲーム

ねらい	ピボット
人数	2人組み
時間	1分間(30秒間×2セット)
準備	ソフトバレーボール2人に1個

ボールをとられそうになったら、クルッと足を大きく踏み出してまわって、ボールをとられないようにしましょう。



片方の足は、床から離してはいけません。

- やり方
- ・2人1組になって、30秒間相手にボールに触られないように
 - ・ボールをタッチする人は相手の体に触ってはいけません。
 - ・時間で交代します。

⑦小学校高学年～

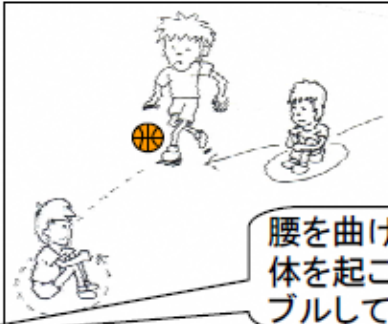
【ドリブルポイントゲーム】

ドリブルポイントゲーム

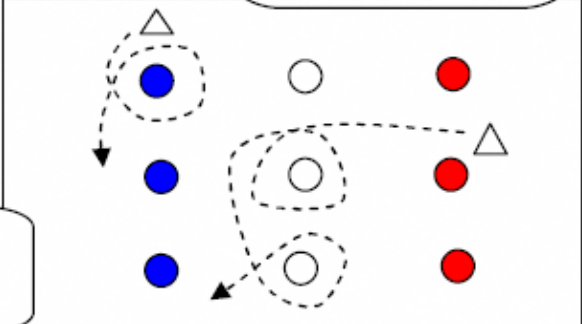
6年もどる

ねらい	ドリブル
人数	各チームの半数
時間	2分間(1分間×2セット)
準備	バスケットボール2人1個

ほかの子が回っていないところを見つけていくんだよ。
ボールを見ないでつけるとまわりが見えるよ。



腰を曲げないで、体を起こして、ドリブルしてみよう。



やり方	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム毎に2～3m間隔に座ります。座っている子の間をドリブルしてまわります。ドリブルしながら、空いている人を見つけたり、ぶつかったりしないように周りをよく見ながらドリブルします。 ・1人回ったら1点。1分間で取れた点数を競います。 ・時間で座っている人と交替します。 ・同時に同じ人をまわったり、1度まわった人の周りを続けてまわることはできません。
-----	--

⑧小学校中学年～

【ポートボール5対5(フィールド3対3)】

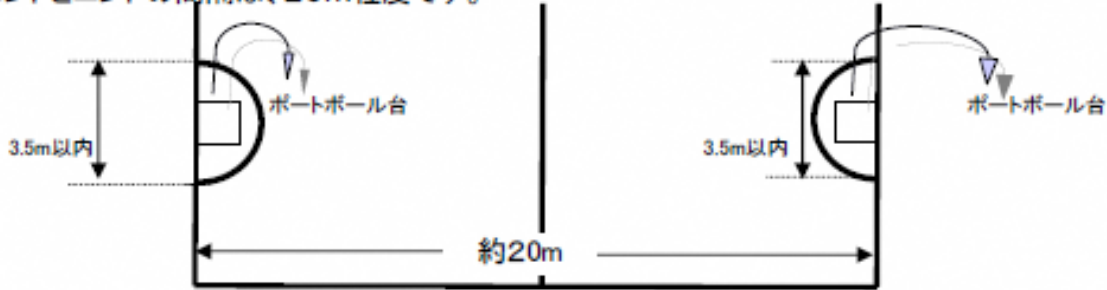
「ポートボール5対5(フィールド3対3)」

校庭の場合は、下図のようなコートを用意します。

4年もどる

コートのエンドに半円(直径3～3.5m)を描き、半円の中心にポートボール台を置きます。

エンドとエンドの間隔は、20m程度です。



親チームと子チームに分けた場合は、「親対親・子対子」でゲームをしてください。

「親対親・子対子」のように、習熟度別に分けた場合は、技能の高い「親チーム」同士、また技能の低い「子チーム」同士が対戦するようにします。これは技能の低い児童の学習の機会を保障する方法です。

ローテーション表

5人チーム用 (○印はフィールド ▲はガードマン ●はゴールマン)

ゼッケン番号	1	2	3	4	5
1セット	▲	●	○	○	○
2セット	○	▲	●	○	○
3セット	○	○	▲	●	○
4セット	○	○	○	▲	●
5セット	●	○	○	○	▲

4人チーム用 (○印はフィールド ▲はガードマン ●はゴールマン)

ゼッケン番号	1	2	3	4	5人チームより
1セット	●	○	○	○	▲
2セット	○	●	○	○	▲
3セット	○	○	●	○	▲
4セット	○	○	○	●	▲
5セット	●	○	○	○	▲
6セット	○	●	○	○	▲
7セット	○	○	●	○	▲
8セット	○	○	○	●	▲

⑨小学校中・高学年～ 【ハーフコート3対2 ドリブルなし】

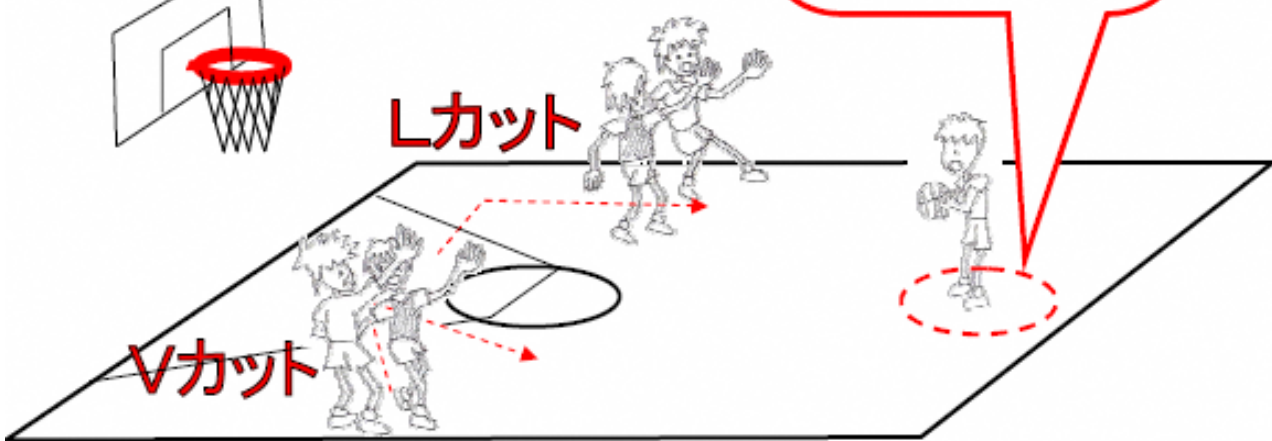
ハーフコート3対2(ドリブルなし)

ねらい	サポート
人数	3人对2人
時間	30秒間(30秒×4セット)
準備	ソフトバレーボール1つ

試合時間とセット数は、授業の進み具合に応じて変更してかまいません。

サポートとは、ボールを保持していない子が、パスをもらえる位置に移動する動きのことです。

この場所でボールを持っている子は、動けないので、パスだけになります。ボールをもらう子は、サポートをしないともらえません。



Lカット、Vカットをつかうとパスがもらえるよ。うまく動いて、パスをもらおう。得点チャンスが生まれるよ。

センターラインの近くにいる子は、動けないけど、攻められなかったら、戻してもいいよ。

ルール	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールコートの半面を使います。 ・攻めと守りに別れ、開始は、センターラインのあたりから始めます。 ・30秒間は、何回も攻められます。得点を取ったり、相手にボールが取られたら開始場所から始めます。 ・開始場所にいる子は、動けません。そこからパスをしたり、パスを受けることはできます。 ・ドリブルなし。 ・パスは、両手パスのみ。 ・ボールを持って歩いてはいけません。 ・相手や相手の持っているボールにさわってはいけません。
-----	--

5年もどる
6年もどる

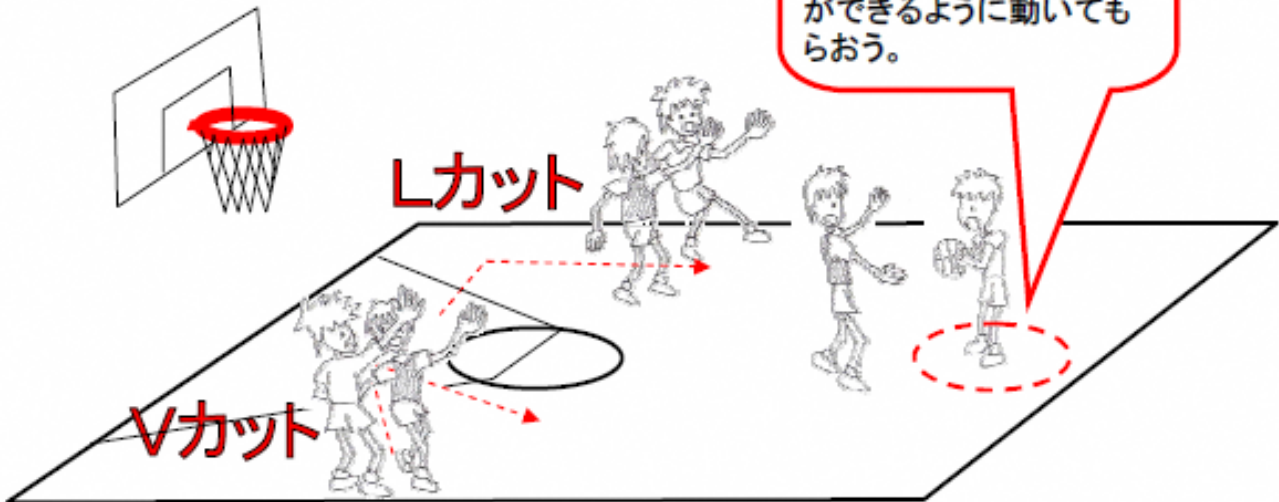
⑩小学校中・高学年～ 【ハーフコート3対3 ドリブルあり】

ハーフコート3対3(ドリブルあり)

ねらい	サポート
人数	3人対3人
時間	30秒間(30秒×4セット)
準備	バスケットボール1つ

試合時間とセット数は、授業の進み具合に応じて変更してかまいません。

始める時は、センターラインのあたりからパスで始めます。ボールを持っていない子は、サポートができるように動いてもらおう。



Lカット、Vカットをつかうとパスがもらえるよ。うまく動いて、パスをもらおう。得点チャンスが生まれるよ。

ルール	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールコートの半面を使います。 ・攻めと守りに別れ、開始は、センターラインのあたりから始めます。 ・30秒間は、何回も攻められます。得点を取ったり、相手にボールが取られたら開始場所から始めます。 ・ドリブルあり。 ・パスは、両手パスのみ。 ・ボールを持って歩いてはいけません。 ・相手や相手の持っているボールにさわってはいけません。
-----	--

6年もどる

小学校学習指導要領解説体育編・平成29年6月・文部科学省から抜粋

第2章 体育科の目標及び内容

第1節 教科の目標及び内容

1 教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付けその解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し楽しく明るい生活を営む態度を養う。

第2節 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

1 目標

- (1) 各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けるようにする。
- (2) 各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 各種の運動遊びに進んで取り組みきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したりし、意欲的に運動をする態度を養う。

2 内容

E ゲーム

ゲームについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 知識及び技能

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームをすること。
ア ボールゲームでは、簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームをすること。
イ 鬼遊びでは、一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどを行うこと。

ア ボールゲーム

〔例示〕

- 的当てゲーム
- シュートゲーム
- 相手コートにボールを投げ入れるゲーム
- 攻めがボールを手などで打ったり蹴ったりして行うゲーム
 - ・ ねらったところに緩やかにボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして、的に当てたり得点したりすること。
 - ・ 相手コートに緩やかにボールを投げ入れたり、捕ったりすること。
 - ・ ボールを捕ったり止めたりすること。
 - ・ ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ること。
 - ・ ボールを操作できる位置に動くこと。

イ 鬼遊び

〔例示〕

- 一人鬼，手つなぎ鬼，子増やし鬼
- 宝取り鬼，ボール運び鬼
 - ・ 相手（鬼）にタッチされたり，マーク（タグやフラッグ）を取られたりしないように，空いている場所を見つけて，速く走ったり，急に曲がったり，身をかわしたりすること。
 - ・ 相手（鬼）のいない場所に移動したり，駆け込んだりすること。
 - ・ 少人数で連携して相手（鬼）をかわしたり，走り抜けたりすること。
 - ・ 逃げる相手を追いかけてタッチしたり，マーク（タグやフラッグ）を取ったりすること。

(2) 思考力，判断力，表現力等

(2) 簡単な規則を工夫したり，攻め方を選んだりするとともに，考えたことを友達に伝えること。

ア ボールゲームや鬼遊びの簡単な遊び方を選ぶこと。

イ 友達のよい動きを見付けたり，考えたりしたことを友達に伝えること。

(3) 学びに向かう力，人間性等

(3) 運動遊びに進んで取り組み，規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり，勝敗を受け入れたり，場や用具の安全に気を付けたりすること。

ア ボールゲームや鬼遊びに進んで取り組むこと。

イ ボールゲームや鬼遊びをする際に，順番や規則を守り，誰とでも仲よくすること。

ウ ボールゲームや鬼遊びの勝敗を受け入れること。

エ ボールゲームや鬼遊びで使用する用具等の準備や片付けを，友達と一緒にすること。

オ ボールゲームや鬼遊びを行う際に，危険物が無いか，安全にゲームができるかなどの場の安全に気を付けること。

〔第3学年及び第4学年〕**1 目標**

- (1) 各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方及び健康で安全な生活や体の発育・発達について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 各種の運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動をする態度を養う。また、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

2 内容**E ゲーム**

ゲームについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 知識及び技能

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームをすること。
ア ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすること。
(略)

ア ゴール型ゲーム**[例示]**

- ハンドボール、ポートボール、ラインサッカー、フットサルなどを基にした易しいゲーム（味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム）
- タグラグビー、フラッグフットボールなどを基にした易しいゲーム（陣地を取り合うゲーム）
 - ・ ボールを持ったときにゴールに体を向けること。
 - ・ 味方にボールを手渡したり、パスを出したり、シュートをしたり、ゴールにボールを持ち込んだりすること。
 - ・ ボール保持者と自分の間に守る者がいないように移動すること。

イ ネット型ゲーム（略）**ウ ベースボール型ゲーム（略）****(2) 思考力、判断力、表現力等**

- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。

- ア 自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選ぶこと。
- イ ゲームの型に応じた簡単な作戦を選ぶこと
- ウ 課題の解決のために考えたことを友達に伝えること

(3) 学びに向かう力, 人間性等

(3) 運動に進んで取り組み, 規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり, 勝敗を受け入れたり, 友達の考えを認めたり, 場や用具の安全に気を付けたりすること。

- ア 易しいゴール型ゲーム, ネット型ゲーム, ベースボール型ゲームに進んで取り組むこと。
- イ ゲームの規則を守り, 誰とでも仲よくゲームをすること。
- ウ ゲームで使用する用具などの準備や片付けを, 友達と一緒にすること。
- エ ゲームの勝敗を受け入れること。
- オ ゲームやそれらの練習の中で互いに動きを見合ったり, 話し合ったりして見付けた動きのよさや課題を伝え合う際に, 友達の考えを認めること。
- カ ゲームやそれらの練習の際に, 使用する用具などを片付けて場の危険物を取り除くなど, 周囲を見て場や用具の安全を確かめること。

3 内容の取扱い

- (3) 内容の「E ゲーム」の(1)のアについては味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム及び陣地を取り合うゲームを取り扱うものとする。
- (8) 各領域の各内容については運動と健康が密接に関連していることについての具体的な考えがもてるよう指導すること。

〔第5学年及び第6学年〕**1 目標**

- (1) 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方及び心の健康やけがの防止、病気の予防について理解するとともに、各種の運動の特性に応じた基本的な技能及び健康で安全な生活を営むための技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己やグループの運動の課題や身近な健康に関わる課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 各種の運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気

2 内容**E ボール運動**

ボール運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 知識及び技能

- (1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをすること。
 - ア ゴール型では、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすること。
 - イ (略)
 - ウ (略)

ア ゴール型**[例示]**

- バスケットボール、サッカー、ハンドボールなどを基にした簡易化されたゲーム（攻守が入り交じって行うゴール型）
- タグラグビーやフラッグフットボールなどを基にした簡易化されたゲーム（陣地を取り合うゴール型）
 - ・ 近くにいるフリーの味方にパスを出すこと。
 - ・ 相手に捕られない位置でドリブルをすること。
 - ・ ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動すること。
 - ・ 得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをすること。
 - ・ ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすること。

イ ネット型（略）

ウ ベースボール型（略）

(2) 思考力, 判断力, 表現力等

(2) ルールを工夫したり, 自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

ア ルールを工夫すること

イ 自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶこと

- ・ チームの特徴に応じた作戦を選び, 自己の役割を確認すること。

ウ 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えること

(3) 学びに向かう力, 人間性等

(3) 運動に積極的に取り組み, ルールを守り助け合って運動をしたり, 勝敗を受け入れたり, 仲間の考えや取組を認めたり, 場や用具の安全に気を配ったりすること。

ア ゴール型, ネット型, ベースボール型の簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組むこと。

イ ルールやマナーを守り, 仲間と助け合うこと。

ウ ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで, 分担された役割を果たすこと。

エ ゲームの勝敗を受け入れること。

オ ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり, 話し合ったりする際に, 仲間の考えや取組を認めること。

カ ゲームや練習の際に, 使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに, 用具の安全に気を配ること。

3 内容の取扱い

(5) 内容の「E ボール運動」の(1)についてはアはバスケットボール及びサッカーを, イはソフトバレーボールを, ウはソフトボールを主として取り扱うものとするが, これらに替えてハンドボール, タグラグビー, フラッグフットボールなどア, イ及びウの型に応じたその他のボール運動を指導することもできるものとする。なお, 学校の実態に応じてウは取り扱わないことができる。

(9) 各領域の各内容については運動領域と保健領域との関連を図る指導に留意すること。